

令和4・5年度 春日部市教育委員会委嘱

研究紀要



令和6年2月9日
春日部市立藤塚小学校

教 育 長 あ い さ つ

春日部市教育委員会 教育長

藤塚小学校は、令和4年度から2年間春日部市教育委員会の研究委嘱を受け、「主体的に活動する力を育む、タブレット等の活用を生かして～楽しく学ぶ、進んで学ぶ、互いに学ぶ～」を主題として、教職員一丸となって研究に取り組まれました。本日、ここにその成果をまとめ、研究発表会が開催されますことに、心よりお喜び申し上げます。

令和3年度に1人1台のタブレットが導入されるのと同時に、藤塚小学校では速やかに効果的な活用方法の校内研修に着手しました。ICTの活用は時代の要請であるものの、どの学校にも、「児童・生徒にどのように使わせるか、どう指導すればよいのか」という課題が直面し困惑されたことと思います。ICTの活用は、児童・生徒が効率的・効果的に学ぶための手段であって、目的そのものではありません。本校は、この認識を常に持ち、研究主題に迫るため児童と教師の視点から2つの柱を掲げて研究に取り組まれました。

本日、その研究の一端が児童の姿を通して公開されることは、誠に意義深いものであります。ご参会の皆様方には本研究実践を参考に、各学校における創意工夫によりICT活用を推進し、児童・生徒に還元されることを願っております。

結びに、本研究の推進のため、これまで熱心なご指導、ご助言を賜りました指導者の皆様に深く感謝申し上げます。また、中川貴子校長をはじめとする教職員の真摯に研鑽を積む姿勢に敬意を表するとともに、今後の一層の研究と実践をお願いして、あいさつといたします。

校 長 あ い さ つ

春日部市立藤塚小学校 校長

本校では、令和4年度・5年度の2年間、春日部市教育委員会の研究委嘱をいただき、研修主題「主体的に活動する力を育む、タブレットなどの活用を生かして～楽しく学ぶ、進んで学ぶ、互いに学ぶ～」を設定し、実践的な研究に取り組んでまいりました。

思い返しますと、委嘱前の研究0年次はGIGAスクール構想により1人1台のタブレットが導入され、教室はICTが前提としてある環境になりました。ICTを「学びの効率化」の一手段として「I（いつも）C（ちょっと）T（使う）」を目指し、手探りの実践が始まりました。

手探り状態の中、研究1年次にはGoogleアプリに加え『ミライシード』が導入され、活用範囲の広がりにより研究の方向性も混沌としました。そこで、「普段使い」と「教員のスキルアップ」を目指し、「デジタル思考ツール」に焦点を当て、本校の課題である思考力や表現力の向上を図る授業実践を進めました。

そして、迎えた研究2年次はICTの「汎用」と「継続」を実現するための体制作りに着手するとともに、新たに「デジタルシティズンシップ教育」の視点を大西久雄先生にご教授いただいております。

このように実践と考察を繰り返している研究の途上ではありますが、本日、本校の研究の一端をご提案させていただきます。子供たちが楽しく・進んで・互いに学ぶ姿、それを具現化しようと奮闘する教員の姿をご覧ください。ご参会の皆様から忌憚のないご指導、ご助言を賜れば幸いです。それらを糧とし、教職員一同、今後も研鑽に励んでまいります。

結びに、ICT活用に取り組んだ3年間で実感したことは、子供たちはタブレットが好きであり、技能は教員の想定を超えて上達し、一部の子供たちにとっては文房具の域に達しつつあります。一方で、教員はそれを上回ろうと気負うことなく、学習の質を向上させるため授業の力量を着実に高めることが大切です。確かな指導力の土台があってこそタブレットの的確な活用が成立すると考えます。本校教員の指導力向上のための熱心なご指導と本研究推進のためのご教示を賜りました指導者の皆様、関係者の皆様に心より感謝申し上げ、あいさつといたします。

本校の取組

ICTを活用した積極的な授業実践

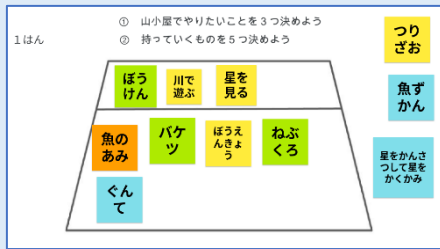
思考ツールを活用した授業実践

児童の主体的・対話的な学習を具現化し、それらを効率化するための方策として、①自分の考えを整理し深めるのに効果的な「思考ツール」と、②自他の意見を収集し共有するのに効果的な「Chromebook」を合わせ、デジタル版思考ツールで授業実践を行った。①と②のそれぞれの特性をいかすことにより、能動的に授業に参加したり、グループの意見交流が活発になったりする様子が数多く見られ、学習のツールとして高い効果があった。

【3年生】

国語「山小屋で三日間すごすなら」
【思考ツール】
「変形ピラミッドチャート」

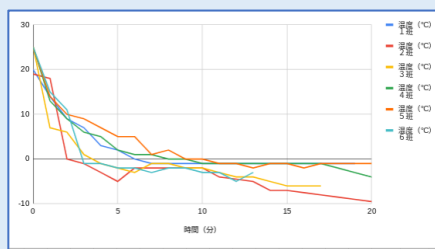
学習内容の特性に合わせて、最上段を取り除いたピラミッドチャートを jamboard で用意し、話し合い活動を行った。児童はタブレットの付箋を動かしながら理由の意見を発表し、論理的に考えながら活発に話し合い活動を行うことができた。



【4年生】

理科「水の3つの姿」
【思考ツール】
「表・フィッシュボーン」

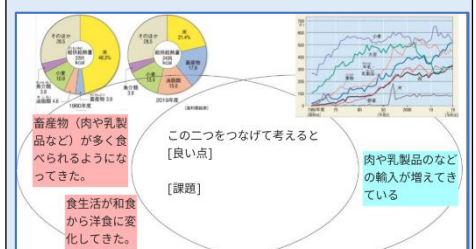
水の温度変化をスプレッドシートの表に入力することで、グラフをかく手間が省け、数値の変化を見やすくした。また、シートを共有して他の班との比較を容易にしたことで共通点に注目しやすくなり、しっかりとした根拠を基に学習内容をまとめることができた。



【5年生】

社会「食料生産とわたしたち」
【思考ツール】
「ベン図」

オクリンクを使って2つのグラフを関連させて読み取る学習で活用した。先にそれぞれのグラフ単体で読み取りをさせ、どんな変化があるかを明確にした。その後ベン図のカードを配付し、スモールステップで資料を読み取ることで、より丁寧にグラフを読み取ることができた。



デジタルシティズンシップ教育の実践

1人1台タブレット端末時代において、児童がICT機器の善き使い手となるために、デジタルシティズンシップ教育の拡充を図った。まずは校内研修を通じ、教員のデジタルシティズンシップに対する理解を深めた。その研修をもとに、6年生の総合的な学習の時間「デジタルシティズンシップ教育」の学習計画を立案し、授業実践を行った。

ICT機器に関する諸問題を知り、解決するための具体的な行動を児童自身が考え、友達同士で協議する活動を通じ、デジタルシティズンシップへの理解を深めることができた。

学習計画(全8時間)

配時	学習内容
第1時	ガイダンス「デジタルシティズンシップとは何か？」
第2時	学習①「メディアバランスとウィルビーイング」
第3時	学習②「対人関係とコミュニケーション」
第4時	学習③「ニュース メディアリテラシー」
第5時	学習④「デジタル足あととアイデンティティ」
第6時	学習⑤「セキュリティとプライバシー」
第7時	学習⑥「ネットいじめとネットトラブル」
第8時	まとめ「より善きデジタル市民になるために」

授業実践の実態

2023年実施のGIGAスクール構想実現の調査の質問2「今年度9月から12月までの間、1人1台端末をどの程度授業で活用したか」に対する本校の回答は右の表のようにになっている。発達段階に応じて積極的に授業で活用しており、高学年になるにつれて授業内容とICTの相性が良いものが多く、使用する機会が増えている。

研修当初は、教員全員が「とにかく使ってみる」という手探りの状態だったが、失敗と成功を繰り返しながら実践数を増やし、「どの教科や学習形態に、どのアプリを、どのように使ったらよいか」の判別を体得したことで授業の質を高めてきた。同時に、回数をこなすことで教員のICT活用スキルの向上にもつながった。

	学級数	内訳
ほぼ毎日 3時間程度	3クラス	高学年3クラス
ほぼ毎日 1時間程度	2クラス	高学年1クラス 中学年1クラス
週に3日程度	5クラス	中学年3クラス 特支学級2クラス
週に1日程度	4クラス	低学年4クラス

ICTの「汎用と継続」を実現するための体制づくり

藤塚ポータルサイト

教員がよりICTを活用した授業とそれらに係る準備がしやすくなるように、情報の「蓄積」「共有」を目的とした教員向けポータルサイトを作成した。他にも、デジタル教科書や学習に役立つサイトのリンクを用意し、授業準備にも使うことができる。



過去の授業実践を一覧で表示した。ページ左部の各教科のリンクからデータの保管庫へ移動が可能となっている。

各教科のページには、これまでに過去の担任が作成したデジタル教材が保存されたドライブへのリンクや年間指導計画などが学年ごとに用意されている。



外部指導者・ICT支援員の活用

児童がICTを使いこなすためには、まず教員がICTで「何ができるか」「どんな使い方ができるか」を把握することが前提である。そこで、指導者を招聘したICTに関する知識とスキルを高めるための研修を行ったり、視聴覚センター主催の講習会に参加したりした。実際の簡単な授業づくりを想定した体験型研修を多く行ったことにより、すぐに実践できるスキルを身に付けることができ、全教員が積極的にICTを活用する授業を実施してきた。また、知識やスキルが未熟な教員も、ICT支援員と協力することで、過去の実践例や効果的な活用法を知って授業づくりにいかし、計画的にT・T形式での授業を実施して、経験と自信を積むことができた。

ICTスキルアップのための授業パッケージの作成

児童のICTスキルの向上のため、各学年で身に付けさせたい技能を基に一覧表を作成した。また、これらの技能を身に付けさせるためには、具体的にどのような指導をすればよいかを明確にする必要があり、各学年5～10時間を目安に指導例を一覧表に付加した。これにより、どの学年を担当しても全教員の指導水準を一定にし、ICTの得意不得意に関係なく、児童が段階的に必要な技能を身に付ける機会を確保できるようにした。さらに、一覧表は使用ソフト（アプリ）ごとに一覧となっているため、児童は各学年における技能習得の目標が明確になり、教員は各学年における既習・未習の技能をふまえた授業の構想と準備がしやすくなった。

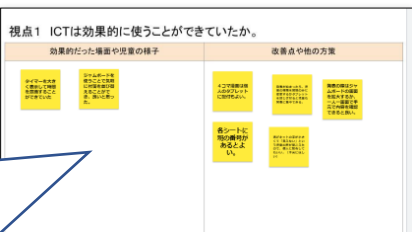
令和5年度		情報活用能力育成のための年間指導計画【アプリケーションの				
学年	基本操作	ミライシート オクリンク	ミライシート ムーブノート	Google クラスルーム	Google フォーム	Google ジャムボード
1年生	電源ON/OFF	ログイン	ログイン	クラスルームに参加	アンケートの確認・回答	
	ログイン	写真撮影 (カメラの切り替え)		meet参加		
	ペイント	手書き入力				
2年生		カードをつまむ				
		コピー・貼り付け				
	写真・動画撮影	トリミング	写真の切り付け	ストリームの確認		付箋 (手書き入力)
	OPEポータル	手書き入力	コメント入力	資料の閲覧		付箋 (移動)
3年生		ログイン(パスワード変更)	カードをつまむ			付箋 (移動分け)
						文字入力
		スライドショー				付箋 (色替え)
	カメラロール表示	スクリーンショット		課題の撮影		
	内蔵ストレージ	カード選択		課題の提出		

情報活用のための指導計画表 (一部)

校内研修研究協議

研究授業の際、教室後方にタブレットを複数台設置しておき、参観者が気付いたことをJamboardで作成したシートにその都度入力していく。これにより研究協議での話し合いがスムーズに行われ、より充実した研究協議を実施することができた。

ファイルは低・中・高・担外ブロック別に作成する。協議では、付箋を操作し便宜的に色分けや大きさを工夫する。中心となった話題は付箋を拡大し、全体共有の際に伝達しやすくする。



バーコードでの提出物管理

スプレッドシートを使い、主に宿題の提出状況把握の目的で活用している。音読カードやドリルにバーコードシールを貼り、毎日の提出の際にバーコードリーダーで読み取らせ、誰が、いつ、何を提出したのかを把握できる。

提出済みの児童は、マスが青く表示される。未提出がある児童は、未提出の宿題が表示された上でマスが赤で表示される。

年度	日付	学年	組	漢字	計算	音読	自習
2023	1/5(金)	6	7	✓	✓		
席号	氏名	未提出の宿題	席号	氏名	未提出の宿題		
14	N		14	N			
15	O		15	O			
16	P	計算	16	P		計算	
17	Q		17	Q			
18	R		18	R			
19	S		19	S			
20	T		20	T			
21	U		21	U			
22	W	漢字、計算	22	W			
23	X		23	X			
24	Y		24	Y			
25	Z	計算	25	Z			

研究の概要

学校教育目標

豊かな心を持ち、進んで学び行動できる子

進んで学ぶ子
進んで学び、深く考え
表現できる子

心豊かな子
思いやりの心を持ち
協力し助け合う子

明るくたくましい子
心身ともに健康で、
根気強く取り組む子

<目指す学校像> 一人一人が輝く、みんなで輝く、元気いっぱいの学校

<目指す児童像> 知恵いっぱい、笑顔いっぱい、元気いっぱい



研究主題

主体的に活動する力を育む、タブレット等の活用を生かして
～楽しく学ぶ、進んで学ぶ、互いに学ぶ～

ICTを活用して
学習がわかる・で
きる喜びを味わい
主体的に学ぶ。

ICTを活用して
自分の考えをし
っかり持ち、表
現・発信する。

ICTを活用して
意見を交流し、自
分の考えをより
深める。

柱1：積極的授業実践

タブレット等の活用による主体性思考力の向上と協働活動の活性化



柱2：「汎用・継続」

のための体制作り
タブレット等の常用の
ためのスキルの向上と
情報共有の容易化

藤塚
小学
力向上
プラン

課題解決のための具体的な方策

- ・対話的な学習により協働して課題を解決する学習経験を積む。
- ・思考ツールを活用し情報を比較、分類、関連付けして思考する授業を行う。
- ・基礎基本を繰り返して、定着を図る。

本校の学力における課題

- ・話すこと、聞くこと、書くこと → 表現の苦手さ
- ・基礎基本を活用した課題解決 → 思考や応用の苦手さ

学びの
効率化

研究組織

研修推進委員会

校長、教頭、主幹教諭、研修主任、情報主任、各ブロック1名

ブロック部会

低学年

中学年

高学年

情報部会

全体の成果と課題

【成果】

- ・ICTの活用は、児童の考えをより深めたりグループの考えを練り上げたりすることに対して非常に効果的である。それにより児童は学習の楽しさや分かりやすさを知り主体的に学習に取り組んでいる。
- ・教員一人一人が積極的にICTを活用した授業実践を行うことで、ICTを活用した授業の質を高めることができた。研修当初の研究協議会では研究授業の振り返りの際「どのようにICTを活用したか」が話題となっていたが、年次が進むにつれて「授業のねらいの達成のために他にどのような活用方法があるか」など、よりよい授業を作るためのツールとして活用する力を身に付けることができた。
- ・授業実践をデジタルで共有・蓄積することにより、担当学年が変わっても過去の実践事例をもとに授業準備ができるため、そのまま活用して教材研究の時間を削減したり改良を加えてより深めたりすることができた。
- ・タブレットを扱う機会が増えたことに伴い、デジタルシティズンシップ教育を並行して行うことで、スキルとモラルの両立ができている。

【課題】

- ・児童と教員のICT活用スキルが向上し、授業で常用できる程になったが、ICTの活用と学力との結びつきを考察・研究していきたい。

ご指導いただいた皆様（敬称略）

吉川市教育委員会特任教育支援員・幸手市教育委員会ICT教育専門員・文教大学教育学部非常勤講師
東部教育事務所教育支援担当指導主事
東部教育事務所教育支援担当指導主事
東部教育事務所教育支援担当指導主事
春日部市教育委員会指導課指導担当主幹（現春日部市立上沖小学校教頭）
春日部市教育委員会指導課指導担当指導主事
春日部市教育委員会指導課指導担当指導主事
春日部市教育委員会指導課教職員担当指導主事
春日部市教育委員会社会教育課生涯学習推進担当指導主事（現春日部市立春日部中学校教頭）
春日部市教育委員会社会教育課生涯学習推進担当指導主事
春日部市立八木崎小学校長（現春日部市立備後小学校長）
春日部市立飯沼中学校教頭（現幸手市立西中学校校長）

研究に携わった本校職員

【令和5年度】

【令和4年度】

【令和3年度】